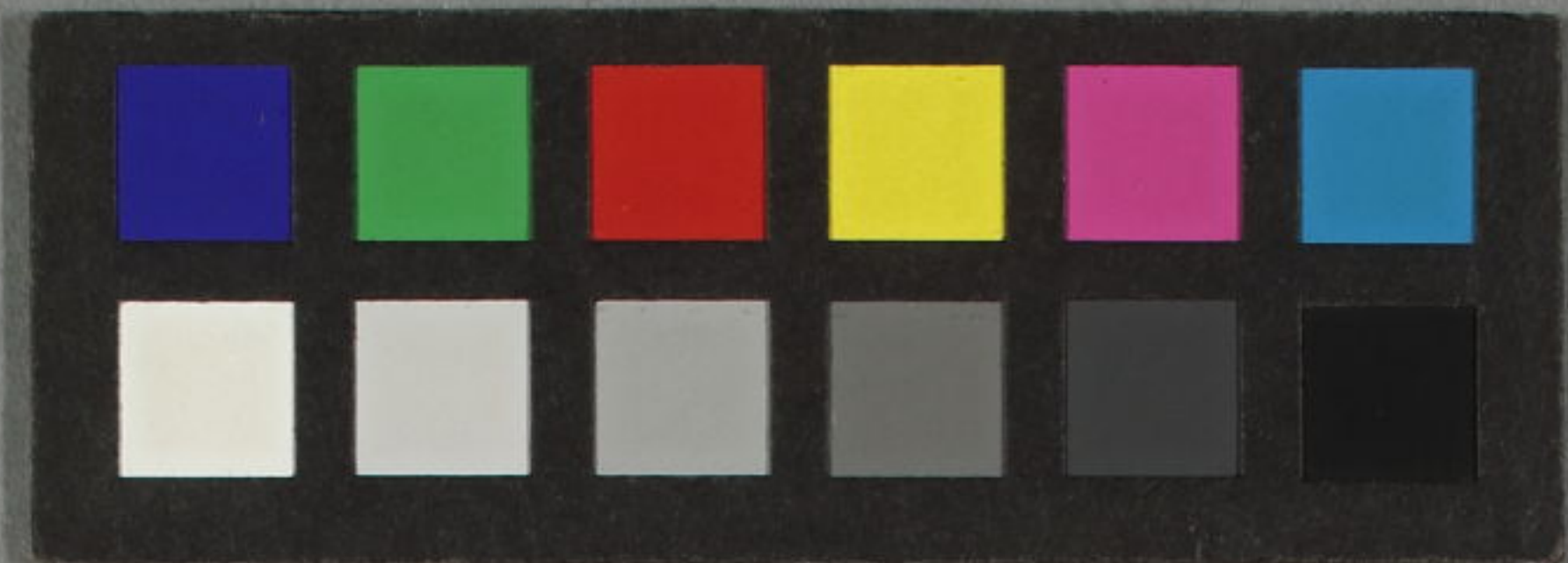




平泉寺冬詣之記

和装本

ハ 4

1530





後

平旦物本記

日





天保六年正月の三日 宇保 宇保郡 一人及出く

平泉寺の清い山に三〇〇の東山にまると歌し

はひしをふめううく 快晴の宿と宿をう

りふ山の事 諸君く 杉をうりて造る 宇保

の人とサくある故 彼ふふ心念 甚ふ山に 宇保

岩君の此道も急やあひしと 只か 宇保

千部の市街も清り出して 誇りし 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

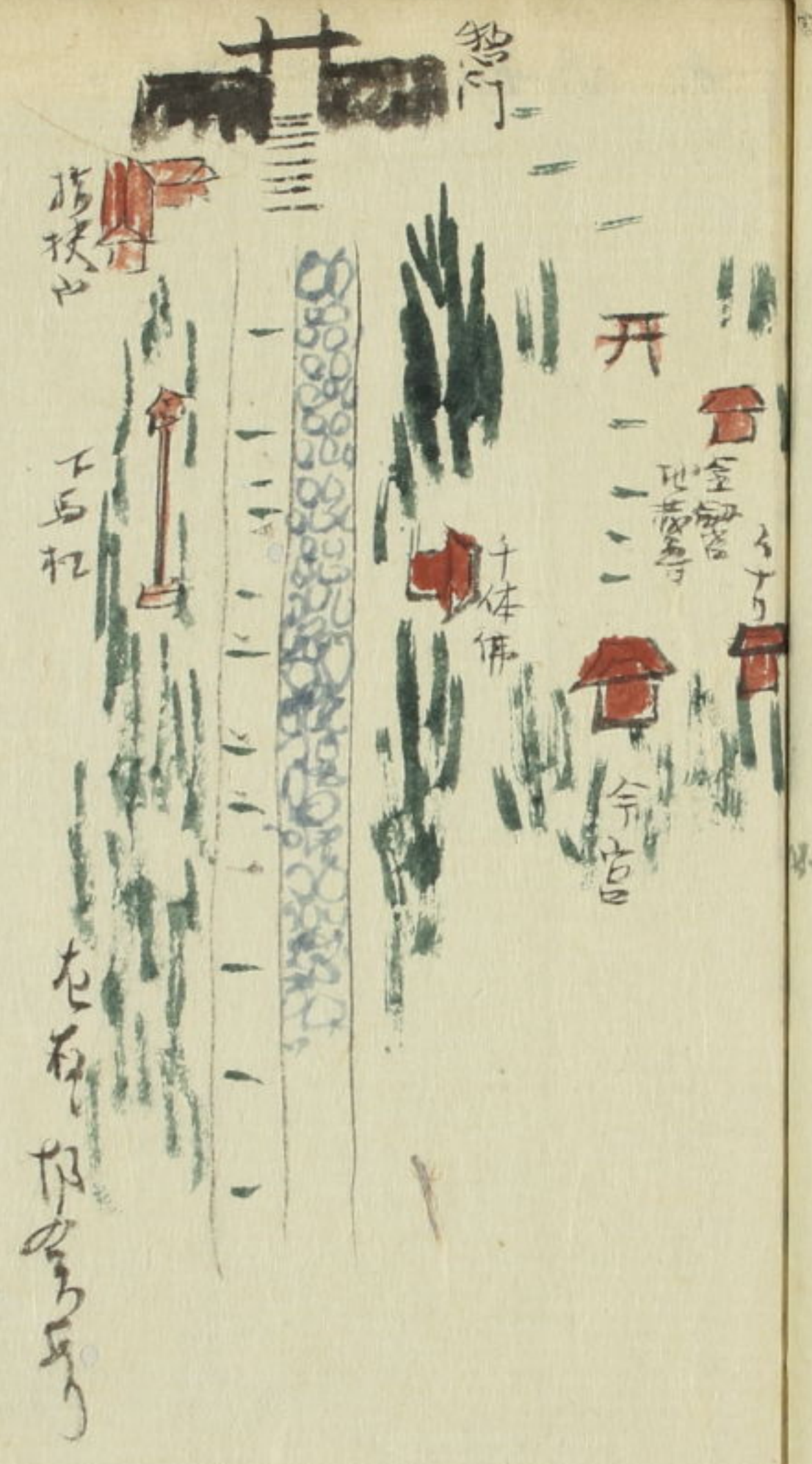
宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

宇保 千部の市街は宇保と云ふ 宇保

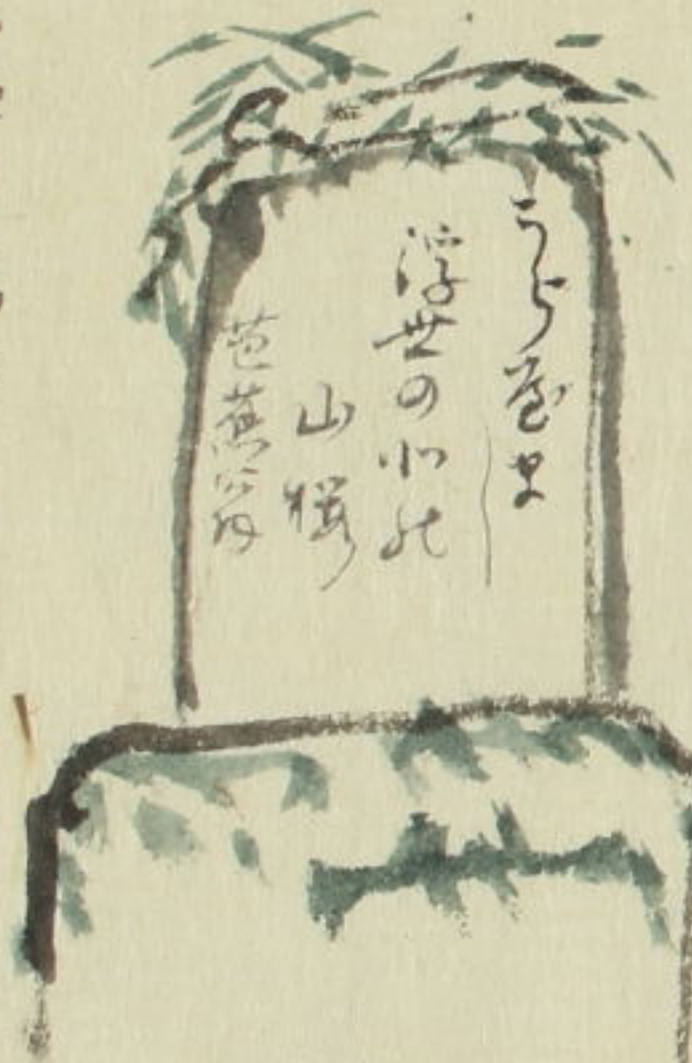
是の寺に道ノ在りて中ノ寺に玉川石ニテ作りたる
 中細言は保内寄附と云はる所ノ寺なり



又七つりやい 千俵佛堂小佛殿より下馬札ハ
 在りてあり 寺宮右ノ寺あり 寄附寺あり
 本地田畠門 芳徳 稻荷山 金銀小何地
 地蔵寺 まが勢つて 魚名門内 寺あり
 門ノ前ニ 稻林と云 御物足世の 寺あり
 宿とて 寺あり 商人あり 似比坂の 寺あり
 所宮の 寺あり



寺門と云し 在りて 寺殿院ノ 額 雲底山と云
 院山ノ 寺也 門外ニ 芭蕉寺あり 寺あり



寺殿院門内 右ノ寺に 寺あり 中宮平泉寺ノ 寺
 寺あり 額あり 寺所 國常立寺あり 本地 寺あり
 寺あり 寺殿院ノ 寺あり 寺あり 寺あり
 本寺 寺あり 寺殿院ノ 寺あり 寺あり 寺あり
 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

莫

寛文八年戊午六月日、九字あり

上
大なり、
大なり

楠公五百回忌日にありぬるを

夢を前に糸解きし事也 奇なる例ぞと看
 せしむるに かく主たることと云ふなり
 何と云ふに 殊に時を移るる事なり

又百重丸をその日迄

ちやうど

三
ふ
お
み
と
は
ろ
ろ
ん
し
記

[illegible]

